

# なかよし

天童中部小学校  
いちよう学級だより  
R4. 7. 26  
No. 11

## そだ やさい 育てている野菜から学ぶ

いちよう学級では、5月の上旬から一人一人の子どもたちが自分で選んだ好きな野菜を育てています。そんな中、いちよう3組ではメロン、スイカ、ピーマン、トマト、大根、トウモロコシを植えました。苗や種を植えてからは、毎日のように水やりをしてきました。「まだ育たないかな。」「育ったら早く食べたい。」と観察しながら想いを膨らませていました。



一番最初に実ったのは大根でした。Aさんは「早く抜いてみたい!」と元気よく昼休みにオアシスランドに向かい、収穫していました。「家に帰ってすぐ食べるんだ。サラダにしようかな。」と笑顔で下校しました。収穫できた体験を素直に喜ぶ姿が微笑ましく思いました。

ピーマンを育てているBさんは、慎重にハサミで切り取って収穫していました。一個だけ残っていたので、担任が「どうして一個だけピーマンを残したの?」と聞くと、Bさんは、「まだ大きくなるかもしれない。」と答えました。「まだこのくらい育つかもしいない。」と収穫の時期を見極めて話していました。理科の学習に必要な「予想する」という学び方が生かされていたように思いました。



Cさんの育てていたトマトは実が黄色の品種でした。「もう食べれるのかな。」と気になり、実際に食べてみることで、食べ頃を確かめていました。Cさんの様子を見たDさんは、日頃は赤いトマトを食べているので黄色いトマトを食べたことに驚いたようでした。食べてみると黄色いトマトがおいしかったことに気づいたDさんは、こんな品種もあるのかと分かり、満面の笑みを浮かべました。Cさんは、どんなトマトになるのか知っていました。その上でDさんとトマトの成長について話をしていました。



メロン、スイカはまだまだ小さいですが、それでも毎日のように水やりをしていて、DさんEさん、Fさん、Gさんは野菜の世話が習慣となっています。

一人一人選んだ野菜がこのようなエピソードを生み、学んでいる姿が日々の生活から見られます。

